

越前町議会・令和8年3月定例会一般質問【中野 斗夢議員】

(令和8年3月6日 午前11時20分 開始)

○1番(中野斗夢君) 一昨日、越前小学校の校長先生から突如お電話いただきまして、越前オリーブ、海岸沿いに育つオリーブの葉っぱを使ったコサージュを、卒業生の胸に飾りたいということで、小学校のほうに呼ばれまして、その講師として行ってまいりました。皆さん、本当に子どもさんたち喜んでいただいて、むちゃくちゃかわいく、自分でオリジナルのコサージュを作ったんです。ぜひ、これ越前小学校だけにとどまらず、越前町内の小・中学校でも、これすごくいい活動だなというふうに思ったんで、ちゃっちゃ造花でやるよりは、そういうちょっと自分で、越前海岸で育ったオリーブの葉っぱを使って自分でコサージュ作るという、何かすごくいい、で、45分で終わって、とってもいいワークショップではないですけども、講座だなというふうに思いました。

そのときちょっと私びっくりしたんですけども、わあ斗夢や斗夢や、斗夢議員や斗夢議員やというふうになって、ちょっと自分を勘違いするような状況に陥りまして、もうほぼ全員が僕のことを知っているって、ちょっとこれ知事選も考えればよかったなというふうに思うぐらいであります。年齢的に出られないんですけどもね。そういうことで枕を終わります。

議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づきまして一般質問を始めさせていただきます。

さて、早速本題ではありますけれども、まず、国道305号線の越波対策についてであります。前人の伊部議員と少しかぶる部分もあるかもしれませんが、まず国道305号なんですけれども、今、傍聴の方も来られていると思うんですけども、新しくできたバイパスを下りてから、米ノまでずっと行くあの道が305号なんですけれども、新しくできたバイパスができるまでは、いろんな厨の温泉街とか、あのあたりが305号だったんですけども、今、バイパスができたことで、あの上がバイパスになりまして、いわゆるファミリーマートの前とかアクティブハウス越前の前は町道というくくりになっていますので、ご承知おきをお願いいたします。

ちなみに、今回のこの国道305号の越波対策、それから、この今の町道の部分も少し話が含まれますので、ご承知おきをお願いいたします。

この問題については、これまで多くの先輩議員の方々が質問をしてきたとおっております。もちろん該当の地区から何度も要望事項として上がってきていることでしょうし、そして、町としても県や国に幾度となく、何十年も前から対策の要望をしていることと推察をいたします。

では、なぜ今回この質問を改めてするに至ったか、それは高田町長に実際にこの越波の現場に来てもらったからです。あれは今年の1月11日、その日は越前町の消防団の出初め式が行われまして、終了後、その海岸沿いに住む地域の方から1本の電話がかかってきたんですよ。「斗夢君、波がすげえことになっている。一遍見に来とっけ」と、こういう電話があったんですね。僕は「分かりました」とすぐに返事をして、そのときちょうど町長の車とすれ違うタイミングだったんです。終わった後だったんで。ちょっと僕、失礼ながら呼び止めて、「町長、実はこうこうこう電話があつて、来ていただきたいんです」というふうに申し上げ

たら、「あっ、すぐ職員行かせます」と返答がありました。私その足でそのままその現場へ向かったんです。その20分後ぐらい後でしょうかね、私のほうにまた町長から電話がかかってきまして、「やはり私が行きます」というふうに連絡がありました。

そこで、道の駅越前で合流をしまして、その地域の方の案内も受けながら、コンビニエンスストアの辺りぐらいから、南越前町と越前町の境まで、ずっと約1時間半ぐらいかけて、越波の現場とか、要所要所で車を降りて、写真とか動画を撮りました。今日補足資料として配っております。そちらでそのときの写真がいろいろとあるんですけども、実際写っているこの黒い人物は町長なんですけれども、ぜひそれを見ていただければと思います。

道路には大量の砂利とか砂とか、そして3ページにあります2の写真には、ちょっと池のようになっていると思うんですけども、これ実は皆さん全部海水なんです。波が打ち上がったことによって、路肩のほうが海水がどよんとたまって、錦鯉でも飼えるぐらいの海水の量がたまっているんですよ。こういうふうに、常に越波がばんばん上がってくると。写真について一つ一つちょっと説明は省きますけれども、白いのは全て海岸から打ち上がってきたごみです。そして、大きい発泡スチロールの玉であるとか、このぐらいの大きい漁具のブイですね。重さでいうとかなりの重さですよ。

そして、このちょっと写真にはないんですけども、米ノの辺りには、越波の防止として透明の防波堤してありますけれども、あれ割れて、それが道路に散乱しているんですね。あれ1つでも非常に重いんですよ。めちゃくちゃ重い、ただのプラスチックボードじゃなくて、恐らく強化アクリルか何かやと思うんですけども、非常に重いものであります。ですから、透明ですから、運転していると見えないんですよ、それが。めちゃくちゃ重いんで、実は僕持って、それを町長と2人で路肩に寄せたりしたんですけども、これむっちゃくちゃ危ないなというふうに思いましたね。見えないですから、透明ですからね。

私みたいに、越前海岸沿いに住む議員としたら、これ年に二、三回あることですから、ある意味見慣れた光景というふうになりますけれども、それをリアルタイムで初めて見た町長にとっては、衝撃的な光景だったのではないかなというふうに思います。

以上が、今回この一般質問をするに至った経緯でありますけれども、後ほど町長の感想も踏まえて質問をさせていただきます。

では、まず、現在要望中、あるいは既に事業化をしている越波対策等の事業を教えてください。建設理事、お願いします。

○議長（藤野菊信君） 建設理事。

○建設理事（原 雅哉君） それでは、お答えをいたします。

越波対策といたしましては、消波ブロックなどの設置のほか、護岸のかさ上げがあり、内容や状況に応じて国庫補助事業や県単独事業などで対応しております。

現在、白浜海水浴場の駐車場から南に約100メートルの間が、国庫補助事業で事業化されており、県において測量及び設計を実施していただいているところでございます。

また、要望中の箇所につきましては、特に越波被害が大きい左右地係、梅浦地係のほか、厨地係の大浜や長須浜における対策を、国並びに県へ要望しているところでございます。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 今お答えありましたように、先ほど伊部議員の質問にもありました白浜のあの辺りが越波対策の事業化が進んでおりまして、早々に着工が始まるということでもあります。

そして、この日、越波があった1月11日の後にも、地区住民から連絡いただきまして見に行ったら、大浜の後ろ、民宿の後ろの大きいコンクリートブロック、このちょうど理事が座っているより大きい演台、もっと大きいぐらいの演台がばーんと2つに割れて、何が一体一瞬で起こったんやというぐらいのすごい光景があるんですけども、そういったところも随時修繕が進めばというふうに期待するところです。

次に、越波対策のこの事業化に当たり、優先度等はあるのでしょうか。また、町道や国道で、対応の違いや事業化の速度に違いはあるのでしょうか。肌感でもいいので教えていただきたいと思えます。

○議長（藤野菊信君） 建設理事。

○建設理事（原 雅哉君） それでは、お答えをいたします。

まず、越波対策の事業化の優先度についてでございますが、事業化に当たりましては、越波による危険性や通行への支障など社会的影響の大きさ等を、事業主体において総合的に判断し、優先度が決定していることと承知しております。また、町道と国道における対応の違いはございませんが、事業化の速度につきましては、国庫補助事業を活用する場合と県単独事業として進める場合とでは、優先度に加えまして予算措置や手続の状況等により、採択までに要する時間に差が生じていることと承知しております。

以上でございます。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） それでは、町長に伺います。

あの現状を、1月11日、まず同行いただいてありがとうございました。あの現状を見たときの率直な感想、これを教えていただければと思えます。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） 質問にお答えします。

1月11日に、厨から米ノにかけて、写真にあるように、中野議員たちと共に海岸、道路の状況を現地で確認いたしました。改めて越波の影響の大きさと危険性を強く感じたところでございます。現地では、海水が道路上や周辺にまで入り込み、路面が広くぬれている箇所も見られました。加えて、写真にありますように、飛散物や堆積物も確認され、車両の通行及び駐車、歩行者の安全確保の面でも、非常に厳しい状況であると受け止めております。

また、こうした影響は道路だけにとどまらず、地域住民の皆様の暮らしや事業活動、さらに観光で訪れる方々に関わる問題であることから、現地を見て改めてこの問題に関しての認識を強く実感いたしました。その意味で、越波対策はしっかりと対応していかなければならない重要な課題であると認識しております。

今後も、県や国など関係機関と十分に連携しながら、現場の実情を踏まえた対応が前に進むよう取り組んでまいります。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 次で関連の質問は最後になります。

当時その状況を見た町長は、私にこうおっしゃいました。「国会議員等にもすぐに伝えて、今の現状を打開すべく頑張る」と、こういう心強い言葉もいただきま

した。これについて、教えていただける範囲で、どのような方面に報告をして連絡をしたのか、そして、町としてどのような対応だったか、そして、そのお伝えした先、国会議員や国交省なり関係機関の反応はどうだったか、教えていただければと思います。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） ご質問にお答えします。

現地確認の後、国会議員をはじめ関係の方々に直接お会いする機会もございました。その折々に越波の状況や沿岸道路の厳しい実情についてお伝えしてあります。その際には、現場の切実さや課題の重さについて受け止めていただいているものと認識しております。

今後も、要望書をお渡しする場に限りならず、懇談など様々な機会を捉えながら、必要性和緊急性が十分伝わるよう働きかけ続けてまいります。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） ありがとうございます。

冒頭申し上げたとおり、何度も国や県に要望してきたこの課題、しかし、次回からの要望の熱量を、少なからず変化が生じるのではないかと思った今回の事案であります。そして、この熱量が少しでも上がることを期待します。なぜなら、あのかのときの音とか風とか温度とか、あるいは偶然まちで会った人々の声を聞いた、これを五感で感じた人が実際要望するから、これに期待をする。もちろん、来年度に事が大きく前進して、防波堤の高さがうんと上がったたり、こういったことをすぐ進むとは思っておりません。しかし、今回のことで少しでも、1年でも、何らかの形で対策が進む、このことを大きく期待し、私からも早期の改善を要請し、この質問を閉じます。

次の質問に移ります。

次は、アクティブハウス越前と道の駅越前の再整備計画についてです。

昨年12月の月例会において、アクティブハウス越前の再整備についてという内容で、理事から説明がありました。議員の皆さんにおかれましても、記憶に新しいことかと思えます。

では、まず、再整備を検討するに至った経緯と検討委員会での進捗状況を教えてください。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） 産業理事、高木です。ご質問にお答えいたします。

アクティブハウス越前は平成4年3月に建設され、当初は年間7～9万人の利用者がありましたが、令和4年度には約9,500人まで減少していることから、令和4年9月より指定管理者である越前町公共施設管理公社と、アクティブハウス越前の今後について協議を行いました。その後、令和5年2月の議員月例会、5月には越前地区区長会にて現状と改善策を報告し、経費削減及び赤字縮減を図るため、令和5年10月から令和6年3月までの期間、プール棟を休館としました。その間に行われた施設等の点検において、休館前に確認できなかった不良、故障箇所が確認され、さらに、漏水箇所等が増加していることが判明しました。

平成4年の営業開始以来30年以上が経過しており、経年により施設の老朽化が著しく、安全に営業を再開するには莫大な修繕費用を要します。仮に修繕し再開したとしても、再び同じような事象が表れることも考えられることや、経営改善も見込めないことで、修繕は現実的ではないと考え、廃止を検討することとし、休館を延長することとなりました。

プール廃止に伴う改修工事の財源確保のため、令和6年6月に、福井県の新幹線時代の観光地域スケールアップ事業補助金に応募し、令和6年12月に、道の駅越前を拠点とした越前海岸全体の観光スケールアップを図ることを目的とした計画策定のため、越前海岸地域観光活性化計画策定委員会及びワーキンググループを設立し、令和6年12月から令和7年3月までに5回のワーキンググループで、計画の方向性など主にソフト事業の計画案を作成し、第2回の策定委員会にて承認をいただきました。

令和7年4月からは、ワーキンググループでの意見を基に、アクティブハウス越前の再整備、ハード事業の計画案について、福井県観光連盟からの助言をいただきながら進めてまいりました。令和7年12月の第3回の策定委員会では、解体案と改修案の2案を説明し、解体の方向性で承認いただき、令和8年2月の第4回の策定委員会では、ハード事業の整備内容を加えた計画案を説明させていただきました。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 今ほどの発言の中に、県観光連盟からの助言をいただきという言葉がありました。どのような類いの助言だったのでしょうか、教えてください。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） 産業理事、高木です。

ご質問にお答えいたします。

県観光連盟からは、施設整備の内容が本計画の目標、方向性に即しているか、また、整備後の施設の運用についてなど、特に観光客の滞在時間を延長させる取組を実施できるよう、県内外の事例など魅力アップのための助言をいただきました。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） このアクティブハウス越前、道の駅越前ですね、これを再整備を進めるに当たって、町の方針や、あるいはどのような施設にしていきたいかなど、全くのたたき台はなく、白紙の状態が始まったのか、あるいは行っているのか、これを伺います。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） 産業理事、高木です。

ご質問にお答えいたします。

再整備につきましては、「カニと温泉のまちのリブランディング」をテーマに、道の駅越前エリアを核とした観光周遊の拠点とし、また、カニと温泉に関連した越前地区の観光資源などを展示するなど、地域一体となった観光地域づくりを目指し、訪れる方の滞在時間の延長を図るための施設にしたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） ところでですが、今日、多く傍聴いただいていますし、現在、越前地区に住む住民の方も関心の多いことかと思うんですけども、今の説明からプールの再開はないと判断できますが、差し支えはないでしょうか。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） ご質問にお答えいたします。

先ほども申し上げましたが、令和5年10月から令和6年3月までの期間で、プール棟を休館し、この間で施設点検において故障箇所が確認され、さらに漏水箇

所等が増加していることが判明するなど、30年以上が経過し、経年による施設の老朽化が著しく、安全に営業を再開するには膨大な修繕費用を要することや、経営改善も見込めないことで、修繕は現実的ではないと判断し、以上のことから、プールは廃止に向けた調整を進めております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 安全に営業を再開するのに膨大な費用を要するというのは、具体的に修繕費用は幾らぐらいと試算されているのか伺います。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） 産業理事、高木です。

令和6年の調査では、プールの修繕に約1億8,000万円程度の経費が必要と試算されております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 今回のこの検討委員において、漁火温泉の施設改修等は議論になっていないのか伺います。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） 産業理事、高木です。

ご質問にお答えいたします。

策定委員会の設置に当たり、計画の目的として、越前がにや越前温泉などの観光施設を生かした地域一体となった観光地域づくり、また、休館となっているプール棟を再整備することで、道の駅越前の観光拠点化と説明しておりますので、漁火温泉の改修意見はございませんでしたが、必要に応じて検討してまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 今のお答えなんですけれども、このリブランディングは越前温泉とカニを、もう一度皆様にお伝えしようと、そしてここを利用してもらおうというのが、このリブランディングの計画とか目的であるというふうに思っています。越前温泉という言葉が前に来ていますけれども、この越前温泉をアピールするのに、漁火温泉の改修は議論になっていないと。そして、今お答えあったんですけれども、計画の目的として、越前がにや越前温泉などの観光施設を生かした地域一体となった観光地域づくり、また、休館となっているプール棟を再整備することで、道の駅越前の観光拠点化と説明しておりますので、漁火温泉の改修意見はございませんでしたと言ったんですね。

道の駅越前というのはあの一带を、それは詳しい人から言わせれば、あそこだけが道の駅越前だから、漁火は関係ないとかプールは関係ないという方もたまにいらっしゃいますけれども、我々一般的に考えれば、あの辺一带が道の駅なんです。登録上も恐らくあの辺一带が道の駅になると思うんです。このちょっと申し訳ないですけれども、漁火温泉の施設改修が議論になっていないことと、今の理事の回答では、正直、整合性はないなというふうに私は思います、率直に。ただ、今のような説明で、検討以下が進んでいたということ自体は、もう今ここで何か我々が申し上げても、特に事が変わるわけではないと思うので、厳しいことは言いませんけれども、やはり、後ほどちょっと私、意見言わせてもらいますけれども、この漁火温泉の改修すら議論になっていない、この道の駅の改修をするに当たって。それはちょっといかなものかなというふうに、率直に思います。

では、原案ではプール棟を廃止して、解体して、何らか新しい施設を造るということで話が進んでいると。そして2月27日のこの検討委員会での説明でも、そのような説明で、このように決定する予定ですよというふうに説明したというふうに思います。現にこの2月27日には、そのような説明を聞いたというふうに皆さんおっしゃっています。今、この新しい施設を造るかプール棟を改修するかの、どちらか一方を選ぶような政策になっています。プール棟は廃止し、全てのリソース、人的資源、お金などなど、これを今残っている漁火とか物販のコーナー、そして飲食のコーナー、はたまたもっと言えばとい面にあるかにミュージアムであるとか物販のコーナー、ああいったところに、今のリソース、お金とか人的資源を集中させるという選択肢はあり得ないのでしょうか伺います。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（高木剛彦君） 産業理事、高木です。

ご質問にお答えいたします。

プール棟解体後に、策定委員会などでいただいたご意見をできるだけ反映させた施設を建設する予定で、日本海の眺望を楽しむテラスや、越前焼に関するコーナー、サイクリストやバイカーのための工具の設置など、滞在時間を少しでも延長させ、観光消費額の増加を図ることを考慮した施設にしたいと考えております。

また、この整備計画の中で、道の駅越前前の受電設備や空調設備の更新を実施する計画であり、漁火やかにミュージアムを含めた道の駅越前前が、越前海岸地域の観光拠点であると考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 冒頭、この質問をするに至った理由を申し上げました。12月月例会でこういう説明があったから、この質問をさせてもらいますというふうに申し上げます。

この月例会での説明資料、できれば今傍聴に来ていただいている方々にも見ていただきたいんですけども、今の制度上難しいということ、かなわないわけがありますけれども、その資料には、検討委員会で出た今後進めていきたいであろう意見とか、その意見が既存のプール棟を改修した場合と、プール棟を解体した場合、解体して新築した場合で、どちらのほうを検討委員会で出た意見を反映できるかと、新しくした場合とあるいは改修した場合、検討委員会で出た意見、どっちのほうで反映できるかということが書いてある資料でした。

その資料を見たときに、率直に、私、奇妙というか不思議というか異様というか、そのように思いましたよ。なぜなら、進めていきたいことの内容のほとんどがソフト面。ソフト面というのは、建物を造ったりなんかするというのではなくて、何か企画開発したり、何か旗をつくったりという、そういう柔らかいソフト面のことだったんです。その進めていきたい内容というのが、検討委員会から出た内容が、ほとんどがソフト面だった。そして、今すぐ取りかかれること。さっき理事の回答にありました、バイカーとかサイクリストのために工具を設置して、滞在時間を伸ばそうと考えていると。今できるんじゃないと思うんです、僕。明日から。そんなこと検討委員会で検討する、大事ですけども、それぐらい程度だったら、今できるんじゃないですかと僕は思うんですよ。そして、このすぐ取りかかれることばかりじゃないかというふうに思うんです。

で、それが反映できるかどうかの対象の相手が、プール棟を改修するか新築するかで比較されているんですよ。このハード以外のハードというか、ハード中のハ

ードですよ。プール棟を直すとかプール棟を壊して新しく建てると。これとソフトですよ。今言った工具を置くとか、何か新しいPRのポールをつくるとか、越前町の地場産食材を使った商品を開発するとか。これがプール棟を改修した場合はできるとか、プール棟を改修して新築した場合はできないとかいうふうな表だったんですよ。あれ見たときに、さっき言った、ちょっと言葉はきついかもしれないけれども、奇妙というか不思議というか異様というふうに感じたんですよ。何でこれとこれが比較できるのかなと。

ですから、傍聴者の方々には本当に何も資料のない中で、今私が言ったことを理解することはなかなか難しいと思うんですけども、どんなふうにかかれていたかということをちょっと説明しますと、例えば、カニや温泉をPRするのぼり旗の作成というふうにかかれてあったんです。そして、プール棟を改修した場合と新築した場合、どちらもこの意見は反映できるというふうにかかれてあったんです。今言ったPRするためののぼり旗をつくりますと、そのためには、プール棟を改修しても新築した場合でも、この意見は反映できますよって。この時点で、私はおかしいと思うんですよ。別に改修しなくても新築しなくても、PRののぼり旗はできると思うんですよ。これをわざわざこの資料にした理由も分からないんですよ。

次に、伝統工芸の展示や体験とありました。プール棟を改修した場合は、十分にこの意見を反映できる。新築の場合は、小規模なら反映できるとありました。どの程度の展示をするのかも分からないし、体験ってどの程度の体験なのか。もっと言えば、宮崎村で今新しく、つい先日の月例会で新たな検討委員も決まりましたよ、町議会議員の中で。陶芸村の再開も進むわけですよ。そんな中で、伝統工芸の展示とか体験というものが、そこに入ってくるのも私はよく分からない。

次で最後にしますが、ロゴマークの作成と越前温泉のグッズ制作と書かれていました。これもプール棟を改修した場合と新築した場合では、どちらの意見も反映できるというふうにかかれていたんですよ。それはそうやると。今できるんだから。6億、7億かける計画の説明、この14人の町民を代表した議員にする説明資料とは到底思えないですよ。真剣に考えているのかと。ちょっと怒りすら覚える資料でした、私あは。

全て申し上げませんが、お聞きの皆さんで違和感を感じませんか、今私が言ったこと。なんで、旗とかロゴマークとかの作成と、プール棟の改修と新築がリンクするのか。少なくとも私の、今の現状の理事者側からの説明だけでは理解できません。そしてもっと言うと、十分に反映できるというのが二重丸で表されていきました。反映できるが丸で表されていきました。小規模なら反映できるが三角で表されていきました。

今回の事務方の説明では、新築する方向で話が進んでいると思います。でもね、月例会で見たこの資料には、改修した場合の欄には三角が0個だったんですよ。でも、新築の場合の欄には三角が5個ついていたんですよ。なのに、新築のほうを選んでいるんですよ。検討委員会で出た意見の反映が、十分に反映できない側を選んだということですよ。そうじゃないですか、今。それが違うというのであれば、手を上げていただいて結構ですよ。これも理解できないです、私は。検討委員会で出た意見を反映するためには、率直にあの資料だけ見るなら、改修を選択されるんじゃないかなというふうには私は思っています。

結論ありきで事が進んでいるんじゃないかなということが、どうも勘ぐりますよ。下衆の勘ぐりかもしれませんけれども。そして、そもそも再整備の目的が、カニ

と温泉のリブランディングとかPRなのに、先ほど申し上げたように、漁火の改修も議論になっていないと。町長は、漁火温泉に行ったことがありますかね。今空前のサウナブーム。漁火のサウナ入ったことがある方はおられますか。

一方は、七、八人入ればいっぱいなんです。そして、せっかくの海臨めるのに、窓こっち側についています。七、八人は入れる漁火。そして、もう一つのほうのサウナ、ここ今、男女で言っていない理由は、お風呂が入れ替わるので、男湯、女湯という言い方はしないんです。もう一つのほうは、2人入ったら、サウナ限界なんです。こんなんですわ。そして、窓すらないんです。見えるのは洗い場なんです。ドアから見えるのは洗い場なんです。

例えば、今この空前のサウナブームですよ。いろんな温泉へ行ったら、もう若い者でたくさん。年配の方もたくさん。オリジナルのサウナハットをかぶっていますよ。サウナを改修して、大きな窓を海側に設置して、サウナの要である座席とか足元のすのこや、あるいは炉を囲む板張り、こういったものを越前町産の木材を使ってやって、よく皆さん越前町産木材、越前町産木材と言いますが、サウナほど木材に触れるところはないですよ。手もお尻も足も全て触れますよ。そして、温められて、香りも高まってきますよ。越前町産の木材を使用して、立派なサウナ室を造ったらいいと思いますよ、僕。外には広大な日本海とか漁火が見ることのできる外気浴用の椅子、本当に少ないですね、今、椅子を置くだけでも安い金額で私できると思います。だって高い椅子を置いてって言っているんじゃないんです、プラスチックの椅子でもいいじゃないですか。こういうふうに、現状を打開できることたくさんあると思うんですよ。

そして、まだまだ道の駅越前の中には、和室とかレストランとか屋上とかフロア、今、議員に資料配って、私写真撮ってきました。たくさんデッドスペースあるんですよ。中庭とか、有料の和室とか、そして手狭なこの狭いスペースでやっている飲食店とか、このブルーシーの上はデッキ張りできれいなテラスですよ。こういうデッドスペースいっぱいあるんですよ。

それなのに、何か新しい建物を造って、屋上から海見えるようにしますとか、こういうような議論をする。そして、芝生つくってドッグランにしますという意見もあるそうですよ。冬中、雨、雪、大風なのに、外で遊べる時間のほうが少ないんですよ。そして、検討用紙には、冬のほうが客単価が高いと書いてあるから、やはり冬メインにした売り場、施設づくりをすることが、私あれなんじゃないかなと、妥当なんじゃないかなと思いますけれども、連絡通路も、今の現状、計画案を見る限りでは、外に出なきゃいけないと。

こういうちょっと何と申しますか、そして新しく新築予定のところにはアンテナショップもつくと書いてありましたよ。かにミュージアム側にも、今の道の駅の中にも、物販スペースがあるんですよ。合計3つの物販スペースが生まれることになるわけですよ。新しく新築してアンテナショップをつくったらね。これも、これで消費が上がればいいですよ。今あるお金がもっと増えると。

一方で、じゃ、今まであった100万円の売上げが3つに分かれるようになったら、これ意味ないですよ。同じスケールアップ事業に手を上げている越前市の計画書見ましたかね。ここにありますよ。越前和紙バレー創造事業計画整備計画。めちゃくちゃ綿密に書かれていますよ、これ。こうしたいああしたい、目的、そしてスケジュール感、全てが明確に書かれていますよ。これと、今のこの道の駅越前のダイジェスト版、この町がつくった。これ見ても、どうも私は、もう今すぐどんどん進めろという立場にはなかなか立てません。本当にこのままで大丈夫

かというのが私の意見です。

最後に伺います。そもそもこの計画に伴う資料、一連の資料ですね。月例会から全て2月27日にあった説明の資料、これ町長は是としているのでしょうか。そして、町長はこの課題や計画に対する政策的な考え、どのようにお持ちなのか伺います。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

本計画では、県内トップブランドである越前がに、そして越前海岸で古くから親しまれてきた玉川、厨、南部、3つを総称した越前温泉の魅力をさらに高め、カニと温泉のまちとしての価値を高めていくことを基本的な方向性としております。

ソフト面では、地域に密着した民宿、旅館業や、飲食業の方々を中心としたワーキンググループで提案された施策なども踏まえ、観光連盟と連携し、新たな誘客や消費の拡大につながる取組を進めてまいりたいと考えております。

また、ハード面では、老朽化したアクティブハウス越前を再整備することにより、訪れる方の滞在時間の延長や周遊の促進につながる仕組みを進めてまいり、地域経済への波及にもつながるよう取り組んでまいりたいと考えております。

今後も、観光客や地域のニーズを踏まえ、地域の強みを生かしながら、地域全体の玄関口として、持続可能なにぎわいの創出につながるよう取り組んでまいります。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 時間も少なくなってきました。これで終わりますけれども、昨日、寺坂議員の質問もありました。中部縦貫自動車道の開通を見据えた、こういう計画も立てていく予定はありますかという質問もありました。私、全くそのとおりで同意します。恐竜博物館とか福井の駅前で遊んだ人が、数ある温泉とか絶景のスポットの、数ある福井県のこのスポットの中から、いかに越前町を選んでもらうか。そして、いかにもう一山超えて越前海岸まで足を延ばしてもらうか、これが大事。この計画の中からは、正直、どうもこれをもっと増えて、越前海岸がわくわくするような予感が全くしない。ぜひ、町長、そして副町長には、もっと明確で的確な、その数字も交えた計画になるように、スケジュール感も含めて、ちょっとこの計画の練り直しは必要なんじゃないかなと。このままでいくというなら、もう私もどんどん一般質問をしますけれども、ぜひ取り組んでいただきたい。

以上で質問を終わります。

（午後0時2分 終了）